蓮華温泉スキーツアー

【日程】２０２２年５月２日（前日発）～５月５日
【エリア】白馬連峰
【形態】山スキー
【メンバー】Ｙ、Ｏ
【報告】Ｏ、Ｙ

≪ルート／タイム≫

５月２日

（栂池ゴンドラ駅付近に駐車）

09:55 自然公園駅～11:15 天狗原（30 分休憩）11:45～振子沢～12:50 林道合流

～13:10 蓮華温泉ロッジ

５月３日

05:30 蓮華温泉ロッジ～06:10 兵馬ノ平～08;00 ひょうたん池～10:10 P1705

～11:40 P1840 まで～滑走開始～12:30 ひょうたん池手前 13:00～兵馬ノ平～16:00 ロッジ着

５月４日

05:30 蓮華温泉ロッジ～トラバースルート～06:40 尾根分岐～07:15 雪渓の最低標高

09:40 P1940 沢の出口~雪倉岳 12:15 12:40～13:50 雪渓の最低標高～兵馬ノ平～15:50 ロッジ着

５月５日

06:45 蓮華温泉ロッジ～09:00 栂平～11:30 白池～12:40 タクシーピックアップ（栂池ゴンドラへ周回）

≪報告≫

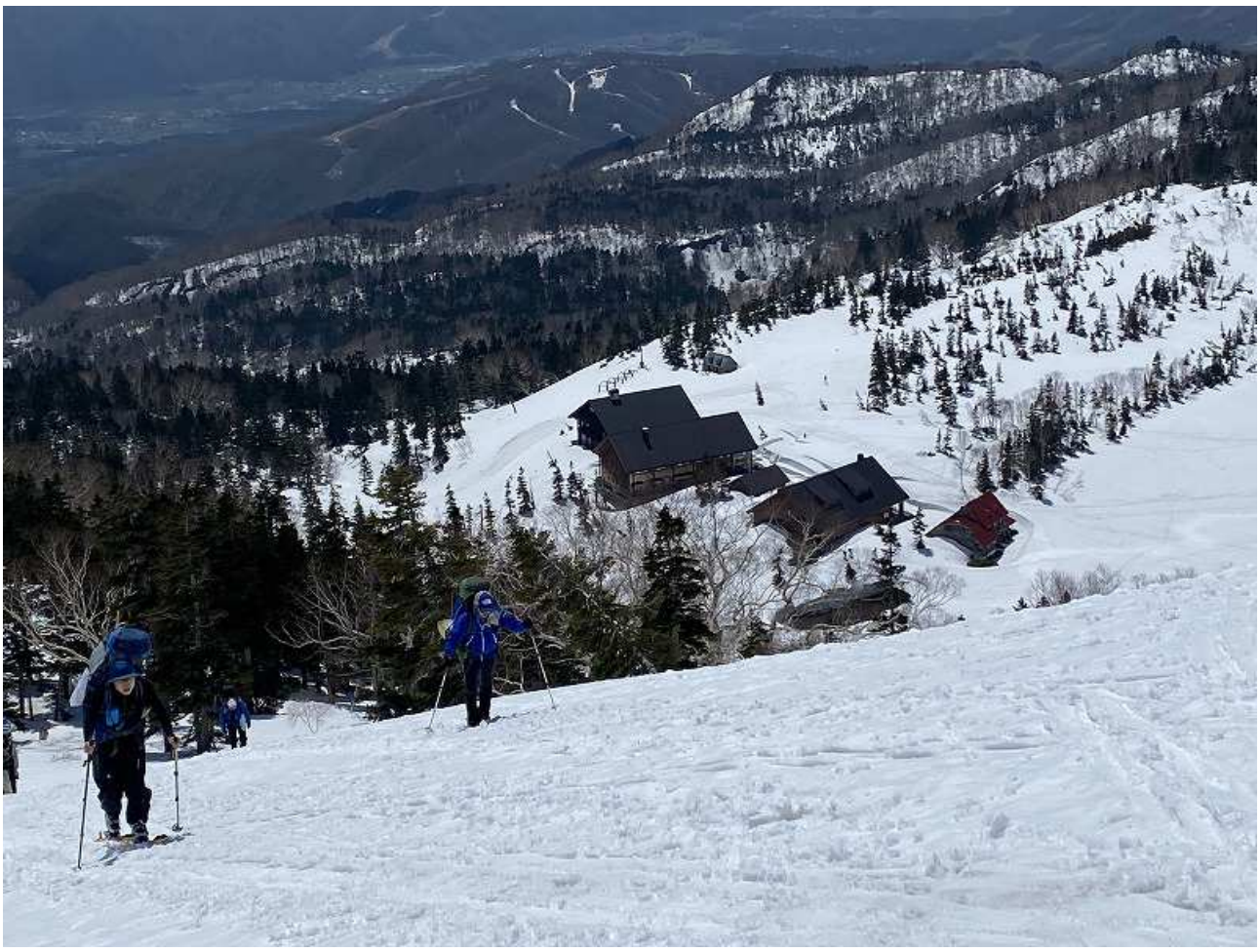
５月２日

蓮華温泉は山スキーヤーの天国だよ、とＹさんからのお誘いがあり、月山･鳥海山山スキー以来のＧ.W.の春山山行となった。

前日の松本入りをスタートに翌２日、８時から運行を開始している栂池ゴンドラ駐車場に向かう。チケット売り場ではバックカントリー愛好者が多いのか、ビーコン・ゾンデ棒・ショベルの３点セットを持参しているか厳しくチェックを受ける。ゴンドラから上部のロープウェイを乗り継ぎ、自然公園駅に到着が９時３０分。天候は晴れ、小蓮華山方面までは展望が見えるが白馬岳の稜線はガスに覆われている。平地では午後から雷雨の予報が発出されているため、この日の行動は蓮華温泉までとは言え、早めの到着を目指す必要があった。

ロープウェイで乗り合わせた客はほとんどが天狗原か乗鞍岳方面での滑走だろう。温泉で３泊とはいえ、６０リットルザック一杯の荷物を担いでのスキー登行は堪える。私たちも約１時間近くのハイクアップの後に天狗原へ到着した。前日までの雪の影響か、シールに雪が団子のように張り付いてくる。いままでにない経験だ。シールワックスをＹさんから借りて対策を行う。

ここから蓮華温泉まではクラシックルートと言われる振子沢へドロップインをする。滑走の降口までは大きな目印はないが、最初の斜度のある谷筋をある程度滑走すると、樹木に蓮華温泉まで丁寧にピンクテープやずいぶん前に備え付けられた鉄板による目印が道案内をしてくれている。



栂池ヒュッテを下に眺めながら天狗原までハイクアップ

温泉に至る車道接続までスキー滑走ができたものの、ところどころ沢が割れ始めており、注意が必要だ。約１時間程度で車道に合流した。宿に到着は１３時過ぎ。到着してまもなくして雪が本格的に降り始めた。明日から目指す朝日、雪倉方面は冠雪になるだろう。

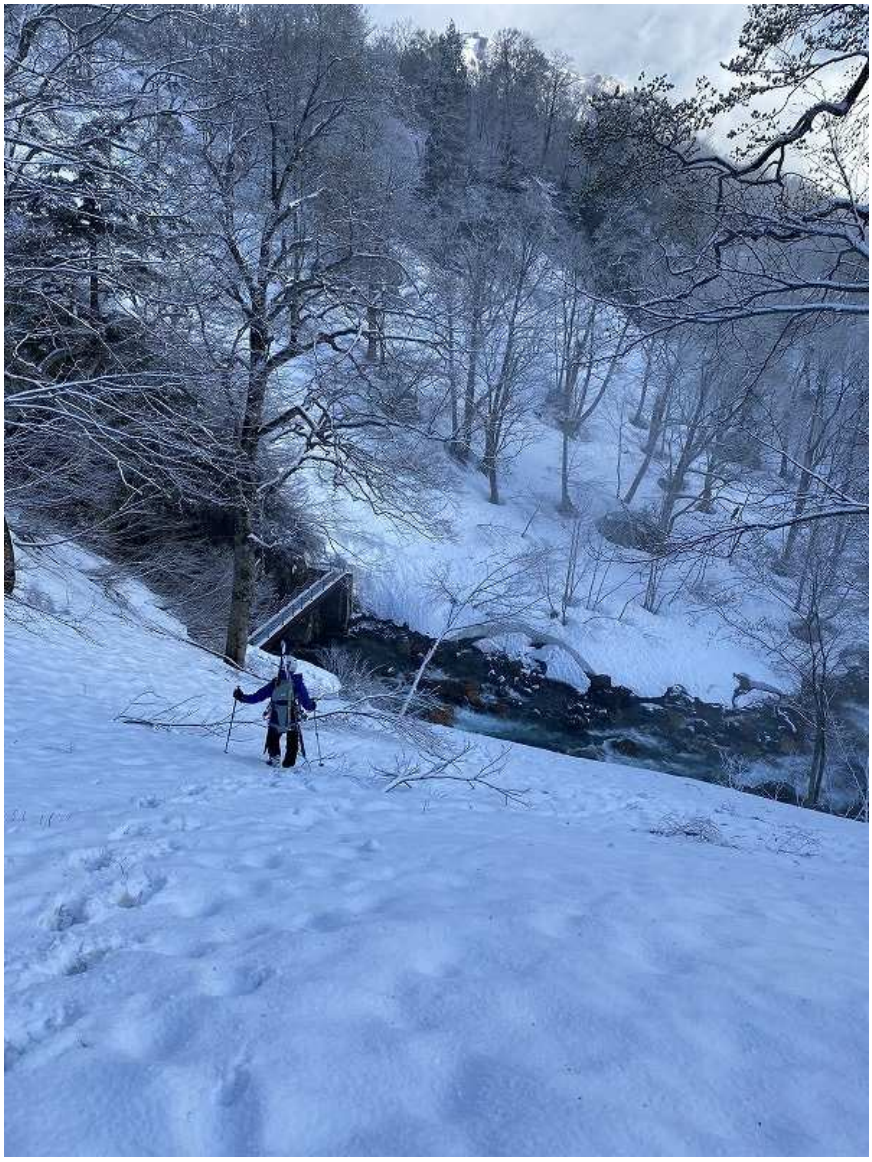
はじめての蓮華温泉泊となった。連休狭間の平日か泊り客は少なめ。内湯は食堂の奥にあり、雪に覆われた露天風呂も徒歩圏内で向かうことが出来る（結果、入る機会はなかったが)。山関連の書籍・雑誌を集めた書斎室もあり、くつろぐには申し分ない環境だ。携帯充電はコンセントがあり可。ただし、電話がつながらない。なかなか雪が降り止まず、明日の山行が心配されたがこの日は明日以降の計画を確認し、早めの休息とさせていただいた。

５月３日

この日は朝日岳に向かうこととした。宿では朝から昼食の代わりにおにぎりを作っていただける。拳サイズでぎっしり中身が詰まったおにぎりはヤマヤにとっては満足の内容。

５時３０分出発。気温は低い。まずは兵馬ノ平まで１時間近くかけて移動。ここは５月下旬にもなるとミズバショウが咲くのだそうだ。いまは木道もみえないが、あと一か月もすると風景が一変するのだろう。

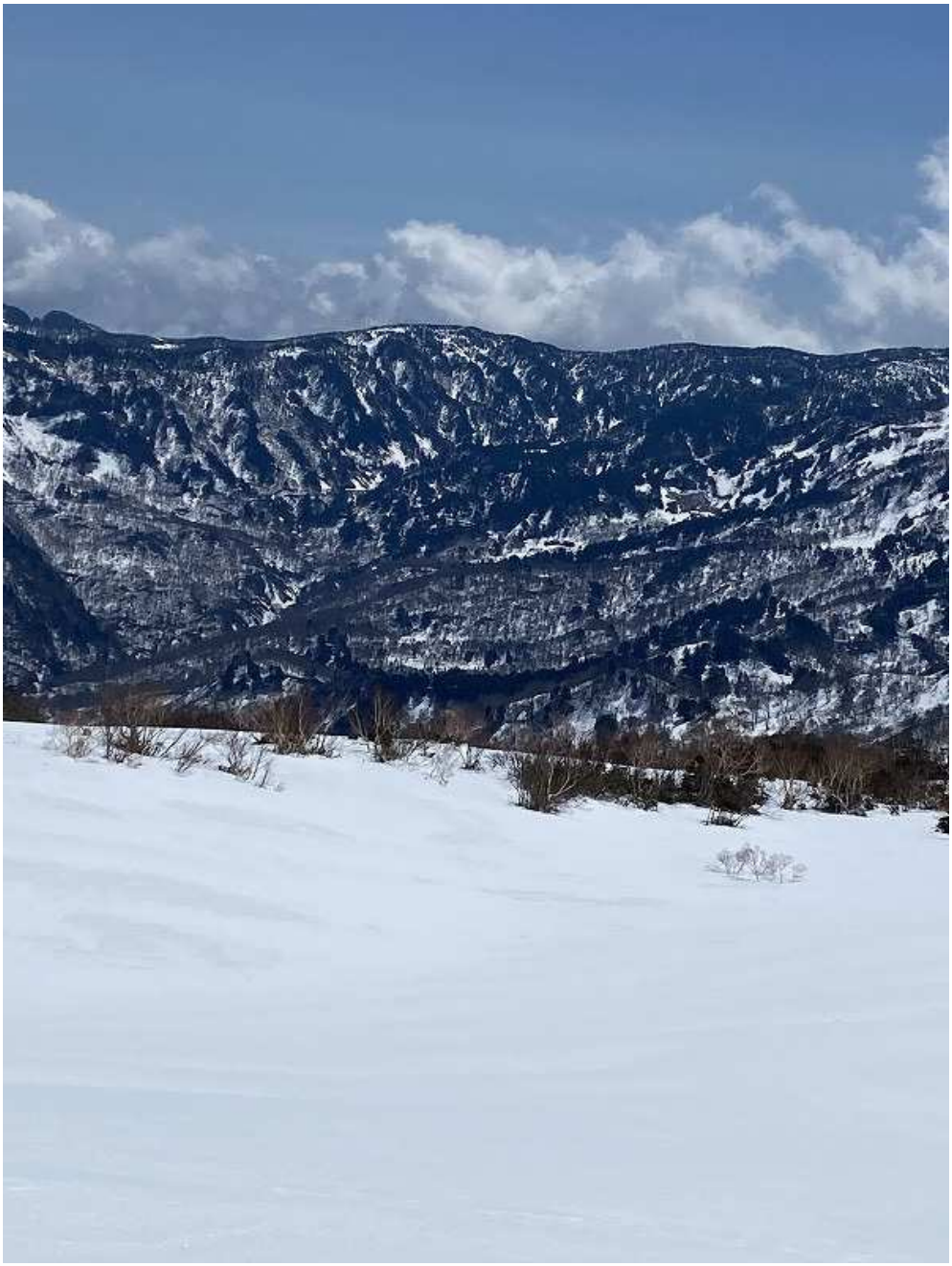
いったん瀬戸川まで標高を下げるために、取り付き部分からアイゼンを履いてスキーを担いで 150m ほどの急な斜面を下降する。本日宿から同じ方向に向かったのはもう１人の男性のみ。瀬戸川に掛かる橋はしっかり露出していた。



瀬戸川へは板を担いで急な下り。鉄橋が見えてきた。

このあたりから天気は晴れの傾向に向かう、但し相変わらず風が止まない。ひょうたん池を越え、P1500 付近の第一高地を目指す。沢沿いの登行ともあり、途中で右斜面が切れ落ちたトラバースや藪を越えなければならない場面が何度かあった。

その後、P1800 近くまで到達したものの朝日岳までは 600m 以上の標高差があること、また稜線の風の動きが速いことから登頂は容易ではないと判断した。



第一高地付近にて。蓮華温泉ヒュッテが中ほど右に見えている。

ここからは瀬戸川まで約 600mの標高差を滑走へ。思った以上に急な斜面もなく、灌木帯、そして樹林帯のツリーランとこれから芽吹く木々の風景を楽しみながら下ってゆく。

第一高地付近を滑走

瀬戸川からの登り返しで汗だくになり、16 時には宿へ到着。この日は多数のスキーヤーやボーダーらが宿に到着し、鯉のぼりと共にスキー板がずらりと並び、蓮華温泉ならではの風物詩ともいえる風景となった。

昨日より一気にスキー板が増え、賑やかになった

５月４日

昨日から宿泊組のうち２０名近くが雪倉岳へ向かったのではないか。私たちも朝食は昨日と同じ形式で済ませ、ほぼ同時刻の５時３０分頃に温泉地を出発した。

雪倉岳へ向かうにはいったん P1380 付近の沢筋へ降りる必要がある。兵馬ノ平へ降りて登り返しをした後に沢筋へ降りるか、あるいは温泉地からトラバースをして高度を保ったまま沢筋へ降りるか。往路は後者を取ることにした。

トラバースルートより兵馬ノ平を下に望む

トラバースは標高差を下げたり上げたりする必要がない代わりに、シールとクトーを使いこなして滑らない技術が求められる。後方からトラバースコースを目指して来られた４人組はクトーを持参されていなかったためか随分と苦労されていた。

雪倉岳の沢合流地点では沢は割れておらず、スムーズに通過。ここからが 1200M 近くの標高を稼ぐスタート地点となる。出だしの 400mほどは雪倉の滝を右にみながら沢沿いにハイクアップ、滝の上部あたりで藪を一部越えながら右の沢へ跨ぎ、滝の上部の沢へと乗り上げる。

このあとは沢が狭くなり、1900m付近の沢出口まで急登が続く。キックターンによりジグザグ登行をつづけるが、安易に考えていたのだろうか、途中で板が外れるなど難渋する場面があった。また下山後に温泉地で乾燥しているシールを見て気付かされたことだが、クトーを付けずにハイクアップされるスキーヤーが多数おられたが、これはシールの種類の差によるものだろうか。毛立ちがはっきりと表れているのはグリップ性があるシールだろう、色々と勉強をさせられた。

私は沢の出口まで登り切った後、３日目で疲れもあったのか、ここまでとさせて頂いた。よく晴れてはいるが風は強い。Y さんはそのまま雪倉岳へ登頂。

滑降を終えた Y さん、1600m付近。上部に見えているのが 1900m付近の沢の出口だ

あとは大滑降である。私は少しの標高差ではあったものの、ダイナミックな白馬山域の滑走を楽しむ

ことが出来た。復路はトラバースルートは気温上昇で雪が緩んでいる可能性があり、兵馬ノ平へいったん降りてからの登り返しとした。昨日より少し早く１５時３０分過ぎには温泉へ戻る。

【Y 記録】

O さんは無理をせず 1900m 弱で止めるとのこと、私は引き続き頂上を目指す。ここからは開けた斜面となり、一定の傾斜が続く。途中２カ所ほど、はい松と小灌木が生えた所で休むことができる。皆、しんどいが頂上から滑降したい一心で登っているのであろう、もくもくと登っている。時々あおられるような強風が吹く中、やっと頂上に到着、10 名ほどが先着していた。雲は全く無いので眺望はすばらしく、四囲の名峰が見渡せる。ここでシールをはずし、滑降準備に入る。もう 10 年近く前になるが、栂池～白馬山荘～雪倉岳～蓮華温泉～栂池でスキーツアーを楽しんだが、あの時は雪倉岳北面を滑降した。雪倉岳北面は､瀬戸川の橋まで標高差 1500m ほどであったが､今回の東面の標高差は約 1200m である。Oさんと無線交信を試みたが、さすがに電波は入らなかった。滑り出しの標高差 200m ほどは、オープンバーンな上に雪質が一定で安心して滑れ、楽しくターンを繰り返した。その下の斜面も開けており、どこでも滑れるがコースアウトすると大変なので、コース取りには気をつける。また、雪質の変化も頻繁で、注意が必要であった。広大な斜面の滑降を終えると、谷中を降りていく。所々注意が必要な個所もあったが、すばらしい天気の下、これらも楽しみながら下れた。やがて待機してくれていたOさんと合流、後は雪倉滝を巻いて登り返しまで一気に下った。

広大な雪の斜面を登って行く

雪倉岳山頂より南方向の眺望　　白馬岳、剣岳、毛勝三山が見える

正面に火打山塊を見ながらのオープンバーンの滑降

５月５日

長いようで短いスキーツアーも最終日。栂池ゴンドラへ振子沢を忠実にハイクアップするか、クラシックルートとして使われている北面の木地屋へ降りるかを検討したが、後者を選択し宿に依頼してタクシーを木地屋に回してもらうことにした。

しかし、５月に入り木地屋ルートは栂平から小峠を登り返してウド川へ滑り込むルートになっているが、沢筋が割れているとの小屋オーナーからの情報があり、ほぼ忠実に車道ルートをスキーハイクすることとした。

車道といってもほとんどは雪がつながっている。車道に対して斜めに雪が載っている状況も多数あり、

決して気が抜けない。不思議なことに橋梁の部分は地面がほぼ露出していることが多く、ここは板の着脱が必要だ。

雪倉岳の全貌。蓮華温泉宿より木地屋ルートからの方がよく見える

こんな作業を繰り返しながら約６時間かけてタクシーが待機してくれている場所までの移動となった。車道ルートはこれまで歩いてきた朝日岳や雪倉岳を違った角度から楽しむことができる。新緑が芽吹く風景と共に栂海新道へつながる山々を左手に見ながら目的地に近づいていく。気温はこの４日間で最も高い。

白池を通過。池の由来が分かるような気がする

氷と雪がミックスした白池付近を過ぎるとようやく携帯電波が入った。このあたりの山域は蓮華温泉を含めて雪倉や朝日の稜線以外は電波が届きにくいのだろう。終盤戦はもともと斜度が緩いうえにブナの実の油が板の裏面に付着して摩擦抵抗でかなり滑りにくくなってしまった。

参考までに下山後に片方の板の汚れを落とし、片方はそのままで撮影をしてみた。ブナの実の油は数年前の月山ツアーでも同じような酷い目に遭っている。これは春スキーの宿命ともいえるかもしれない。

ブナの実で泥だらけになったスキー板

雪が完全に消えた 800m付近までタクシーが迎えに来てくれた

タクシー乗車後、栂池ゴンドラ駐車場まで移動し、今回のツアーは終了となった。車のバッテリーが上がっていることが判明しその日の帰宅時間が遅くなったが、白馬の大きな山塊での経験に比べれば些細なことであったとしておこう。